FD　　8月25日(水)13:00～15:00／アクティブ・ラーニングスペース2

学習評価の基本

■講師

佐藤 浩章
（愛媛大学　教育・学生支援機構教育企画室　副室長・准教授）

北海道大学教育学部教育学科卒業。同大学院教育学研究科教育制度専攻修士課程修了。同専攻博士課程単位取得満期退学。ポートランド州立大学客員研究員を経て、2002 年度から愛媛大学に勤務。この間、北海道大学客員准教授、名古屋大学客員准教授、キングス・カレッジ・ロンドン客員研究フェローを兼務。

城間　祥子
（愛媛大学　教育・学生支援機構　教育企画室　助教）

筑波大学第二学群人間学類卒業。同大学院人間総合科学研究科心理学専攻単位取得退学。2007 年度から愛媛大学に勤務。修士（心理学）。専門は教育心理学。

■プログラム概要

皆さんはどのような方法で、学生の学習を評価していますか。本プログラムでは、学習評価の基本的基礎知識である、学習評価の原則、学習評価の公平性、テストの作成法、学習評価の厳密化と効率化のためのツールといった内容について学びます。自分の学習評価方法を見直し、公平性・厳密性と効率性の両方を満たすものにするためのヒントを持ち帰ることができます。

■本プログラムの到達目標

1. 学習評価の原則を説明することができる。
2. 形成的評価と総括的評価の違いと重要性を説明できる。
3. 多様な学習評価方法を知り、自らの授業で活用できる。

FD・SD共通　8月25日(水)13:00～17:30(2コマ連続)／M24教室

学生から学ぶ学生相談のコツ①②

■講師

泉谷　道子
（愛媛大学　教育・学生支援機構　教育企画室　特任助教）
ニューヨーク市立大学教養学部心理学専攻卒業。松山大学言語コミュニケーション研究科英語コミュニケーション専攻修了。九州大学人間環境学府行動システム専攻博士後期課程在籍。専門は英語コミュニケーション、国際理解教育。

岸岡　洋介
（愛媛大学　教育・学生支援機構　教育企画室　特任助教）
西南学院大学商学部経営学科　卒業。福岡教育大学　教育学研究科　保健体育専攻　修了。九州大学　人間環境学府　行動システム専攻　健康科学コース博士後期課程単位取得退学。スポーツ社会学、リーダーシップ。

山内　一祥
（愛媛大学　教育・学生支援機構　教育企画室　特任助教）
岡山理科大学理学部化学科卒業。愛媛大学教育学研究科理科教育専修修了。専門は高等教育論、キャリア教育、能力開発。

■プログラム概要

日々の学生対応の中で、気が付けば情報の共有に終始しているということはないでしょうか。情報を共有しただけで、相手の行動の背後にある願いや、価値観を共有していなければ、学生に「受け止めてもらった」という満足感を与えられないばかりか、悩み・相談に対する解決策を見出すことはできないでしょう。今回は、「会話」とは異なる「対話」の姿勢とプロセスについて学び、学生と共にロール・プレイングを行いながら、「言葉を分かち持つ」学生対応についてみなさんと考えていきます。「自己の学生対応を客観的に見つめなおしたい。改善したい」という方は、是非ご受講ください。

■本プログラムの到達目標

1. 対話のプロセスについて述べることができる。
2. より良い学生対応に求められるスキル・姿勢について述べることができる。

SD　　8月25日(水)13:00～17:30(2コマ連続)／M33教室

職場内での職員の能力開発手法①②

■講師

秦　敬治
(愛媛大学　教育・学生支援機構　教育企画室　副室長・准教授)

西南学院大学商学部経営学科卒業。九州大学大学院人間環境学研究科発達・社会システム専攻修士課程修了。同専攻博士課程単位修得満期退学(教育学博士)。学校法人西南学院本部・大学経理課係長(主査)、愛媛大学経営情報分析室助教授を経て現職。

■プログラム概要

職場でのOJTが重要であることは、大学職員の職場でも言えることです。しかし、効果的な人材育成が行えるOJTの手法を大学内で有しているケースは稀ではないでしょうか。

本プログラムの前半部分は、職場内での職員の能力育成の手法の一つとして、選択理論を学習します。選択理論に関する知識を修得し、事例からその効果を学びます。

後半部分では、選択理論に基づく職場内での職員の能力開発手法を実践することで、スキルを修得します。ペアワーク、グループワークの中で選択理論を繰り返し使うことと、フィードバックを受けることで、スキルを自らのものへと落とし込んでいきます。

現在、役職に就かれている方、若手のリーダー的な方、今後、そのような立場に就こうと思っておられる方など、多くの職員の方の受講をお待ちいたしております。

■本プログラムの到達目標

1. 選択理論の特徴を説明することができる。
2. 選択理論を使った判断を行うことができる。
3. 選択理論を使った能力開発を実践することができる。

FD　　8月25日(水)15:30～17:30／アクティブ・ラーニングスペース2

わかりやすいシラバスの書き方

■講師

城間　祥子
（愛媛大学　教育・学生支援機構　教育企画室　助教）

筑波大学第二学群人間学類卒業。同大学院人間総合科学研究科心理学専攻単位取得退学。修士（心理学）。専門は教育心理学。

■プログラム概要

シラバスは、授業デザインの基礎であり、より良いシラバスを作ることはより良い授業を作るための出発点となります。しかし、シラバスを作るためには、様々な授業形態、評価方法といった知識がなければなりません。また、授業全体をわかりやすく構築するデザイン力も必要となります。

本プログラムでは、参加者の皆さんに良い授業のヒントを持ち帰っていただくため、シラバスの定義、目的・目標の設定、授業内容・スケジュールのデザイン、評価方法の選択について具体例を示しながら解説します。また、最近注目されている学生の授業時間外学習を促す事例も紹介していきます。後半では、ブラッシュアップの時間をとりますので、参加者はご自分の授業のシラバスをご持参下さい。次学期から新しいシラバスを使って授業ができるようになります。

■本プログラムの到達目標

1. シラバスの定義を説明することができる。
2. 適切な目的を書くことができる。
3. 適切な目標を書くことができる。
4. 効果的な学習を促すスケジュールをデザインできる。
5. 適切な評価方法を選択できる。

FD　　8月26日(木)10:00～12:00／アクティブ・ラーニングスペース2

大人数講義法の基本（SPOD加盟校向け遠隔配信プログラム）

■講師

小林　直人
（愛媛大学　教育・学生支援機構　教育企画室室長
　愛媛大学　医学部　総合医学教育センター長・教授）

昭和 63 年3月東京大学医学部医学科卒、博士（医学）。順天堂大学を経て、平成 10 年より愛媛大学医学部解剖学第一講座助教授、平成 17 年より愛媛大学医学部総合医学教育センター教授。平成 21 年度より教育・学生支援機構　副機構長および教育企画室長を兼任。医学教育関係のFD活動の他、本プログラムでも毎年講師を担当している。

■プログラム概要

「良い」講義とはここでは、わかりやすく、知的な緊張感があり、学生が参加する（した気にさせる）講義をいいます。良い講義をするために気をつけておかなければならない様々な授業スキルを、実例や実習を通して習得することができます。

本プログラムでは、学生とコミュニケーションを取る方法、講義に参加させる方法や授業効果を高める方法など大人数講義で使える様々な授業スキルを実際に体験しながら学んで行きます。

さらに、参加／体験型授業の例として、実際にグループワークを体験していただきます。講義を受け持つようになって間もない教員の方はもちろん、自分の講義を振り返りたいと思われている方も是非受講ください。また、プレゼンテーション能力の開発につながりますので、職員の方々の参加も歓迎します。

■本プログラムの到達目標

1. 学生にとって良い授業とは何かを説明できる。
2. 自ら参加／体験型の授業を経験し、その長所と短所を指摘することができる。
3. 様々な授業スキルを実際の体験を通して習得し、自分の授業に生かすことができる。

FD・SD共通　8月26日(木)10:00～17:30(3コマ連続)／M23教室

教員主導・学生主体の授業の進め方①②③

■講師

中村　文子
（ダイナミックヒューマンキャピタル株式会社　代表取締役）

有名外資系企業で人材育成に従事、2005年より現職。トレーナー養成では世界的権威であるボブ・パイク氏の提唱する「参加者主体のトレーニング手法」を用いた「トレーナー養成ワークショップ」を日本で展開している。ビジネスコミュニケーションスキル、ホスピタリティ関連の研修やコンサルティングを行っている。早稲田大学エクステンションセンター、日経ビジネススクール、日本能率協会にて講師実績あり。

■プログラム概要

企業が研修に投資することの意義は、社員が研修で学んだことを職場で実践し、ビジネスにおいて成果を出すことです。職場で実践するためには、研修で学んだ内容が記憶に定着していること、そして実践しようというモチベーションを持っていることが必要です。その二つを促進するための研修デザインと、クラス運営の手法を体系化したものが「参加者主体」の手法です。本プログラムでは、その一部をご体験いただき、授業への活用や応用方法を見出していいただくことを目的としています。デザインや学習のプロセスは教員・講師に主導権がありますが、その学習のプロセスにいかに学生の主体性を引き出すかがカギです。「先生のお話を学生が聞く」一方的な講義スタイルから脱却し、学生が自主的に授業に参加するような運営方法を検討し、実践していただくアイデアを見出していいただきます。

■本プログラムの到達目標

「参加者主体」の手法を体験し、

1. 学習効果が高まる学習方法の理論を理解する。
2. 効果的なオープニングとクロージング方法の実践案を見出す。
3. 学生の授業への自主的な参画を促進する手法を検討し、実践案を見出す。

FD・SD共通　　8月26日(木)10:00～12:00／M24教室

学生支援～大学における危機管理～

■講師

米澤　愼二
（愛媛大学　経営企画部　人事課長）

愛媛県立川之石高等学校卒業後、国立大洲青年の家採用、国立特殊教育研究所、香川医科大学（現香川大学）、東京医科歯科大学、愛媛大学で勤務、主に人事系を中心に業務を行ってきたが、法人化後、広報室長、総務課長（この間危機管理室長兼務）を歴任し、現職に至る。SPOD－SD担当者として、スタッフ・ポートフォリオの開発及びSDプログラム開発を担当している。

上甲　功治
（愛媛大学　経営企画部　総務課　総務チームリーダー）

愛媛県立宇和島東高等学校卒業後、国立弓削商船高等専門学校採用、学生課、会計課で勤務、愛媛大学転任後は、主に人事系に勤務、平成20年から本部総務課において式典関係を主に、その他総務、危機管理業務を担当している。

■プログラム概要

大学における危機管理は、学生の事故、事件をはじめ多種多様である。愛媛大学で危機管理を担当した経験をもとに、事故、事件発生時の対応方法などについて、具体例を示しながら説明する。

危機管理で大切なことは予防、防止であるが、事件、事故が発生したときは初期対応が重要である。組織として危機管理体制をどうすればいいのか、また、職員個々人がどのような行動をとればいいのか、マスコミ対応なども含めた実践的なプログラムとしている。

■本プログラムの到達目標

1. 大学等における危機管理は何かを説明できる。
2. 事件、事故発生時における職員個人の役割を説明できる。
3. 事件、事故発生時における初期対応の大切さを説明できる。
4. 事件、事故発生時におけるマスコミ対応を説明できる。

※事件、事故の防止に向けた対応（予防措置、業務）を説明できる。
（例：合格者発表ミスの防止、地震対策等）

FD・SD共通　　8月26日(木)10:00～12:00／M31教室

キャリア支援基礎論

■講師

岡　靖子
（愛媛大学　キャリアカウンセラー）

1990 年より教育研修会社に所属し、企業、公的機関、医療機関等での社員研修に従事。2004 年よりフリーランスのキャリアカウンセラーとして、大学・専門学校での就職ガイダンス、行政機関での就職支援セミナー、個別カウンセリング、メール相談事業などを担当。これまで、3分野（企業、行政機関、学校）にわたる業務を経験し、現職。

■プログラム概要

厳しい雇用環境の中、大学生の就職活動は早期化し、学生時代の多くの時間を費やします。多くの情報と限られた時間の中、不安な思いを抱え、どうしたらよいのかわからないまま、その時期を過ごすことになる学生も少なくありません。身近で接する人が話を聴くことは、自己理解を深め、自ら考え、行動する機会を広げます。

本プログラムでは、前半は、キャリア支援・キャリアカウンセリングについて説明し、後半はグループワークを通して、自己理解を深めること・聴くことの効果について体験していただきます。

参加の皆様が、お互いに学びあい、今後のキャリア支援の一助になればと考えています。

■本プログラムの到達目標

1. キャリア支援におけるキャリアの定義を説明することができる。
2. 学生支援におけるキャリアカウンセリングについて説明できる。
3. 自身の支援スタイルに気づき、今後の支援プログラムに反映できる。

FD・SD共通　　8月26日(木)10:00～12:00／M32教室

学生から学ぶ研究室教育のコツ

■講師

（左から順に）

佐藤　浩章（愛媛大学　教育・学生支援機構　教育企画室　副室長・准教授）

北海道大学教育学部教育学科卒業。同大学院教育学研究科教育制度専攻修士課程修了。同専攻博士課程単位取得満期退学。ポートランド州立大学客員研究員を経て、2002 年度から愛媛大学に勤務。この間、北海道大学客員准教授、名古屋大学客員准教授、キングス・カレッジ・ロンドン客員研究フェローを兼務。

城間　祥子（愛媛大学　教育・学生支援機構　教育企画室　助教）

筑波大学第二学群人間学類卒業。同大学院人間総合科学研究科心理学専攻単位取得退学。2007 年度から愛媛大学に勤務。修士（心理学）。専門は教育心理学。

山内　一祥（愛媛大学　教育・学生支援機構　教育企画室　特任助教）

岡山理科大学理学部化学科卒業。愛媛大学教育学研究科理科教育専修修了。専門は高等教育論，キャリア教育，能力開発。

谷中　恭伸（愛媛大学　教育学生支援部　教育企画課　大学院チームリーダー）

弓削商船高等専門学校職員を経て現職。

■プログラム概要

現在の大学研究室では、「学生同士の仲が悪くて困っている」、「ゼミ開始時刻になっても学生が現れない」や「先輩が後輩の面倒を見ない」など、研究室コミュニティーが機能しなくなっているという問題を抱えているケースがみられます。

本プログラムでは、参加者のみなさんに研究室教育のヒントを持ち帰っていただくため、現在の研究室の状況、研究室教育に関する問題点の共有をグループワークを通して行います。また、これらを解決するために、教員がどのような関わり方をすれば先輩学生が後輩学生を指導する関係をつくれるのか、本学のオリジナル教材である「後輩指導ハンドブック」をもとに提案します。

■本プログラムの到達目標

1. 自身の研究室の改善策を提案することができる。
2. 先輩後輩の関係づくりのコツを述べることができる。

FD　　8月26日(木)10:00～12:00／M33教室

学生の学ぶ意欲を引き出す授業とは

■講師

岩中 貴裕
（香川大学　大学教育開発センター　准教授）

岡山大学教育学部中学校教員養成課程英語教育専攻卒業。同大学院教育学研究科英語教育専攻修了（教育学修士）。姫路獨協大学大学院言語教育研究科日本語領域修了（言語教育学修士）。兵庫教育大学大学院連合学校教育学研究科単位取得退学（学校教育学博士）。神戸女子大学瀬戸短期大学英語科助手、神戸女子短期大学総合生活学科講師、同准教授を経て現職。

■プログラム概要

やる気（学ぶ意欲）は、学生の授業態度、授業外での自主学習の質や量、最終的に学習成果を決定する要因です。授業を通して学生のやる気を引き出すことは私たちの大切な役割です。

DVD 教材を使用する、グループ活動を行わせる、ゲーム的要素を盛り込む等、学生のやる気を引き出す方法は様々ですが、その場しのぎの活動になってしまうと学習成果は期待できません。学生のやる気を引き出しそのやる気を保持するための理論的な枠組みを理解した上で、どのような授業活動を行うのかを考えていく必要があります。本プログラムを通して、参加者の皆さんに学生のやる気を引き出すための理論的な枠組みを理解していただき、授業に役立つ具体的なアイデアを互いに共有したいと思います。本プログラムをよりインタラクティブで実りのあるものにするために、参加者の皆さんは、自分の授業において学生のやる気を引き出すためにどのような工夫を行っているのかを箇条書きにしたものをご持参ください。

■本プログラムの到達目標

1. 学生の学ぶ意欲を引き出すために何が必要なのかを説明することができる。
2. 学生の学ぶ意欲を保持するために何が必要なのかを説明することができる。
3. 学生の学ぶ意欲を高めるための理論的な枠組み（自己決定理論）を概説することができる。
4. 学生の学ぶ意欲を引き出す授業計画を立てることができる。
5. 授業内の活動を通じて学生の学ぶ意欲を引き出し、保持することができる。

FD・SD共通　8月26日(木)13:00～15:00／アクティブラーニングスペース2

ディプロマポリシー・カリキュラムポリシー・アドミッションポリシーの開発と一貫性構築の進め方

■講師

小林　直人
（愛媛大学　教育・学生支援機構　教育企画室室長
　愛媛大学　医学部　総合医学教育センター長・教授）

昭和 63 年3月東京大学医学部医学科卒、博士（医学）。順天堂大学を経て、平成 10 年より愛媛大学医学部解剖学第一講座助教授、平成 17 年より愛媛大学医学部総合医学教育センター教授。平成 21 年度より教育・学生支援機構　副機構長および教育企画室長を兼任、教育担当理事の下、大学全体のFDをミクロからマクロまで幅広く担当している。

■プログラム概要

2008 年 3 月に出された『学士課程教育の構築に向けて(審議のまとめ)』では、国際通用性を備えた学士課程教育の構築のために「明確な『三つの方針』に貫かれた教学経営」を求めています。つまり、大学の個性・特色は「各機関の学位授与の方針、教育課程編成・実施の方針、入学者受け入れの方針」(ディプロマ・ポリシー：DP、カリキュラム・ポリシー：CP、アドミッション・ポリシー：AP に対応)に反映されるものとし、この三つの方針の共通理解の下に教職員が日常の実践に携わり、PDCA サイクルを確立することが重要だとしています。また、大学評価・学位授与機構「大学評価基準(機関別認証評価)」でも、同様の方針の策定と公表が求められています。

今回のセミナーでは、DP・CP・AP の策定と一貫性構築を進めていく業務の実際、想定される問題点、成果を上げるコツ等を、愛媛大学の経験をもとに、シミュレーション・ワークショップ形式で実施いたします。

■本プログラムの到達目標

1. DP・CP・AP の策定とそれらの一貫性構築を進めることの重要性について、 政策面を含めて説明することができる。
2. DP・CP・AP の策定とそれらの一貫性構築の進め方について、愛媛大学の事例の良い点、改善すべき点を指摘することができる。
3. 自大学で取り組むべき内容とすぐにできる取り組みを挙げることができる。

FD・SD共通　　8月26日(木)13:00～15:00／M24教室

学生同士が学びあう関係作りの支援
～ピア・グローイング・コミュニティを形成するために～

■講師

岸岡　洋介
（愛媛大学　教育・学生支援機構　教育企画室　特任助教）
西南学院大学商学部経営学科　卒業。福岡教育大学　教育学研究科　保健体育専攻　修了。九州大学　人間環境学府　行動システム専攻　健康科学コース博士後期課程単位取得退学。スポーツ社会学、リーダーシップ。

山内　一祥
（愛媛大学　教育・学生支援機構　教育企画室　特任助教）
岡山理科大学理学部化学科卒業。愛媛大学教育学研究科理科教育専修修了。専門は高等教育論、キャリア教育、能力開発。

泉谷　道子
（愛媛大学　教育・学生支援機構　教育企画室　特任助教）
ニューヨーク市立大学教養学部心理学専攻卒業。松山大学言語コミュニケーション研究科英語コミュニケーション専攻修了。九州大学人間環境学府行動システム専攻博士後期課程在籍。専門は英語コミュニケーション、国際理解教育。

■プログラム概要

学生による学生支援（ピア・エデュケーション）は、大学における新しい学生支援のスタイルとして広く取り組まれるようになってきました。しかし、特定の学生に期待が集中したり、後継者がいなかったりと、取り組みを持続的なものにするためには、課題が多くあるのが現状ではないでしょうか。

本プログラムでは、愛媛大学で取り組まれているスチューデント・キャンパス・ボランティア（SCV）と愛媛大学リーダーズ・スクール（ELS）の事例を取り上げ、教職員が学生同士の学びあう関係（ピア・グローイング・コミュニティ）づくりにどのように関与していけばよいのか解説します。後半では、参加者の方々に自身の大学での実践のヒントを持ち帰っていただくために、グループワークなどを通して経験や知識の共有を行います。

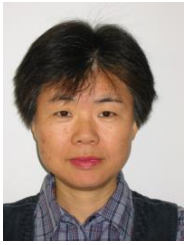
■本プログラムの到達目標

1. 学生支援の鉄則を5つ述べることができる。
2. 自身の大学の学生支援について、課題を述べることができる。
3. 自身の大学の学生支援について、改善策を述べることができる。

SD　　8月26日(木)13:00～17:30(2コマ連続)／M31教室

スタッフ・ポートフォリオの作成方法①②

■講師



（左から順に）

久保　研二（広島大学　大学院教育学研究科　助手）
広島大学教育学部第一類卒業。同大学院教育学研究科博士課程前期学習科学専攻学習開発専修修了。愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室特任助教を経て現職。専門は教師教育学。

大竹　奈津子（愛媛大学　教育・学生支援機構　教育企画室　特任助教）
愛媛大学農学部生物資源学科卒業。同大学院連合農学研究科生物環境保全学専攻博士課程満期退学。専門は水文学。

米澤　愼二（愛媛大学　経営企画部　人事課長）
愛媛県立川之石高等学校卒業後、国立大洲青年の家採用、国立特殊教育研究所、香川医科大学（現香川大学）、東京医科歯科大学、愛媛大学で勤務、主に人事系を中心に業務を行ってきたが、法人化後、広報室長、総務課長（この間危機管理室長兼務）を歴任し、現職に至る。SPOD－SD担当者として、スタッフ・ポートフォリオの開発及びSDプログラム開発を担当している。

秋谷　恵子（愛媛大学　経営企画部　人事課　副課長）

塩出　和久（愛媛大学　経営企画部　人事課　人材開発・服務チームリーダー）

■プログラム概要

スタッフ・ポートフォリオとは何か？また、スタッフ・ポートフォリオの有益性とは何かなどを明示した後に、SPOD－SDでの活用例及び愛媛大学での導入例や実際にスタッフ・ポートフォリオを作成した職員の意見を聞くなど、実践例を示す。

スタッフ・ポートフォリオは大学や大学職員人事マネジメントにどのような影響や効果を与えるのであろうか。また、職員個人にどのような影響や効果があるだろうか。さらには、スタッフ・ポートフォリオは簡単に作成することができるのであろうか。作成する場合に重要なこととは何であろうか。

このような疑問を一つずつ解決できるようなプログラムである。

■本プログラムの到達目標

1. スタッフ・ポートフォリオとは何かを説明することができる。
2. スタッフ・ポートフォリオの有益性を人事マネジメントの面から説明できる。
3. スタッフ・ポートフォリオの有益性を職員個人の面から説明できる。
4. スタッフ・ポートフォリオ作成の際に重要になるポイントを説明できる。

SD　　8月26日(木)13:00～17:30(2コマ連続)／M32教室

大学職員のための企画力養成講座①②

■講師

秦　敬治
（愛媛大学　教育・学生支援機構　教育企画室　副室長・准教授）

西南学院大学商学部経営学科卒業。九州大学大学院人間環境学研究科発達・社会システム専攻修士課程修了。同専攻博士課程単位修得満期退学（教育学博士）。学校法人西南学院本部・大学経理課係長（主査）、愛媛大学経営情報分析室助教授を経て現職。

■プログラム概要

大学職員に必要な能力として「問題発見・解決能力」がよく取り上げられています。このプログラムは、大学改革、業務改善を行っていく上での、「問題発見・解決能力」と「企画提案力」の手法を学ぶものです。研修のための研修ではなく、このプログラムで身につけた手法や企画書を実際に大学に持ち帰り、上司や大学に提案できるよう、実践に即したスタイルで行います。大学や今の業務に疑問や改善点を持たれている職員の方はもちろん、どうやって見つけたらよいか、提案したら良いのか分からない職員の方もどうか遠慮なく参加ください。

■本プログラムの到達目標

1. 問題発見手法を実践するできる
2. 多くの情報をグループ化することができる
3. 問題解決提案を行うことができる
4. 企画を効果的にプレゼンテーションすることができる

FD　　8月26日(木)13:00～15:00／M33教室

授業公開と授業アンケートの効果的な活用方法

■講師

佐藤 浩章
（愛媛大学　教育・学生支援機構　教育企画室　副室長・准教授）

北海道大学教育学部教育学科卒業。同大学院教育学研究科教育制度専攻修士課程修了。同専攻博士課程単位取得満期退学。ポートランド州立大学客員研究員を経て、2002 年度から愛媛大学に勤務。この間、北海道大学客員准教授、名古屋大学客員准教授、キングス・カレッジ・ロンドン客員研究フェローを兼務。

■プログラム概要

公開授業と授業アンケートは、日本において最も一般的な授業改善活動の一つだと言えます。一方で、それだけに形式的な実施に陥っているという声も聞きます。「やりっ放し」にせず、授業公開や授業アンケートを効果的なものにするには、それらをどのように実施したらよいのでしょうか。またその結果をどのように活用したらよいのでしょうか。

本プログラムでは、国内外の様々な事例を紹介しながら、公開授業と授業アンケートの効果的な実施方法、活用方法を以下の項目で説明します。

1. 私が公開授業を推奨しない理由
2. 行動変容につながる公開授業と授業検討会の鉄則
3. たかが授業アンケート、されど授業アンケート
4. やりっ放しにならない授業アンケート活用方法

参加者は、自らの職場において公開授業や授業アンケートを見直すヒントを持ち帰ることができます。

■本プログラムの到達目標

1. 効果的な公開授業と授業検討会の進め方を説明できる。
2. 授業アンケートの特性を説明できる。
3. 授業アンケートの効果的な活用方法を説明できる。

FD　　8月26日(木)15:30～17:30／アクティブ・ラーニングスペース2

小規模校でFDをどう進めたら良いか？

■講師

佐藤 浩章
（愛媛大学　教育・学生支援機構　教育企画室　副室長・准教授）

北海道大学教育学部教育学科卒業。同大学院教育学研究科教育制度専攻修士課程修了。同専攻博士課程単位取得満期退学。ポートランド州立大学客員研究員を経て、2002 年度から愛媛大学に勤務。この間、北海道大学客員准教授、名古屋大学客員准教授、キングス・カレッジ・ロンドン客員研究フェローを兼務。

城間　祥子
（愛媛大学　教育・学生支援機構　教育企画室　助教）

筑波大学第二学群人間学類卒業。同大学院人間総合科学研究科心理学専攻単位取得退学。2007 年度から愛媛大学に勤務。修士（心理学）。専門は教育心理学。

■プログラム概要

小規模校において、高等教育センターが設置されていない、専任教員が配置されていないといった中で、FD を推進していくには多くの困難が伴います。小規模校において、FD を効果的に進めていくにはどのような手法があるのかについて、参加者同士の情報交換、ピア・アドバイジング、小規模先進事例の分析などを通して、考察します。グループディスカッションの時間を多くとります。参加者の皆さんには、ご自身の大学の事例についてお話ししていただきます。

■本プログラムの到達目標

1. 自らの職場の FD の強みと弱みを説明することができる。
2. 自らの職場の FD をさらに推進するアイデアを持ち帰る。

FD　　8月26日(木)15:30～17:30／M33教室

大人数授業でアクティブラーニング

■講師

塩崎 俊彦
（高知大学　総合教育センター　教授）

上智大学大学院文学研究科博士後期課程単位取得退学。専攻、日本文学。2007 年より高知大学総合教育センターで、FD研修プログラムの作成・実施や授業支援に取り組む。

■プログラム概要

1. オリエンテーション
2. アクティブラーニングの体験
   ファシリテーターが実際に行っている授業をもとに、受講者の方々に大人数授業のアクティブラーニングを体験していただきます。
3. ミニレクチャー：アクティブラーニングの考え方
   アクティブラーニングというと、グループワークの手法がもっともオーソドックスなものですが、大人数授業（100 名程度）では、グループワークは不可能です。そうした場合、アクティブラーニングをどのようにとらえて、どのように実施するのか、について説明します。
4. 授業のプランニング
   体験にもとづいて、ご自分の授業でアクティブラーニングを取り入れるとしたらどうするかを考えていただきます。
5. 振り返り

■本プログラムの到達目標

1. アクティブラーニングの考え方を説明できる。
2. 体験を通して理解したアクティブラーニングのアイデアを、自分の授業に応用するプランが立てられる。

FD　　8月27日(金)10:00～12:00／アクティブ・ラーニングスペース2

失敗しないグループワーク導入のためのチームビルディング

■講師

立川　明
（高知大学　総合教育センター　准教授）

高知大学理学部化学科卒業。九州大学大学院分子工学専攻前期博士課程修了。高知大学理学部助手。高知大学大学教育創造センター（現総合教育センター大学教育創造部門）准教授。

■プログラム概要

・グループワークはなぜ必要か

一方的な講義では学問のおもしろさや知識が思うように伝わりません。どうすればよいのでしょうか？現状分析と実施例の紹介をします。

・チームビルディングはなぜ必要か

とりあえずグループワークを導入しても思ったほど効果が上がりません。「おまかせ」の学生がチーム全体のモチベーションを下げるなどは典型的な例です。

このような失敗をしないために，グループからチームへの変容を助ける仕掛けが必要です。

・ゲームによるチームビルディングの実際

実際にチームビルディングの一例を体験してみましょう。

・振り返り

ワークショップをしたら必ず振りかえりを行います。共通体験だけでは効果が薄くても，振り返りとその共有を行うことで効果が数倍になります。

・意見交換

クラス運営にどんな悩みを抱えていますか？グループワークがその助けになりそうですか？ざっくばらんな意見交換をしてみましょう。

■本プログラムの到達目標

1. グループワークの必要性が三つ以上いえる。
2. グループワークのためにチームビルディングが必要である理由がいえる。
3. チームビルディングの手法を一つ説明できる。
4. チームビルディングを自分の授業に取り入れられる。

SD　　8月27日(金)10:00～12:00／M23教室

メンタリングのコツ

■講師

久保　研二
（広島大学　大学院教育学研究科　助手）

広島大学教育学部第一類卒業。同大学院教育学研究科博士課程前期学習科学専攻学習開発専修修了。愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室特任助教を経て現職。専門は教師教育学。

大竹　奈津子
（愛媛大学　教育・学生支援機構　教育企画室　特任助教）

愛媛大学農学部生物資源学科卒業。同大学院連合農学研究科生物環境保全学専攻博士課程満期退学。専門は水文学。

■プログラム概要

現在、人材育成の手法としてメンタリングが注目を浴びてきています。しかし、従来までの人材育成手法とメンタリングとの違いや、メンタリングとコーチングなどとの相違点が、よく分からないという声もよく聞かれてきます。

そこで、本プログラムでは、メンタリングが注目されてきた背景やコーチングなどとの違いも含め、メンタリングについて分かりやすく説明していきます。また、効果的なメンタリングを行っていくためのコツについても解説を行い、それらをもとにしてグループワークで実際のメンタリング体験も行っていただきます。参加者が、自らの職場や私生活において、実際にメンタリングを行っていくことが可能となるヒントを持ち帰っていただきます。

■本プログラムの到達目標

1. メンター、メンタリングについて説明することができる。
2. 効果的なメンタリングを行うコツを挙げることができる。

SD　　8月27日(金)10:00～12:00／M31教室

一人ひとりが広報パーソン

■講師

吉田　一惠
（愛媛大学　広報室　室長　（危機管理室　副室長　兼務））

愛媛大学法文学部法学科卒業。愛媛大学理学部、医学部、農学部、研究協力部、国際交流センターで主に総務、国際交流を担当、広報室副室長(危機管理室副室長兼務)を経て現職。

■プログラム概要

情報公開が当たり前となった今、大学全入時代を迎え、それぞれの大学が独自性を打ち出し、それを学内外へいかに伝えるか、法人化後、国公私立を問わず大学広報が注目されています。大学における広報戦略は大学の経営そのものを左右するとまで言われる中、大学はどのような情報を発信すべきなのか、愛媛大学の広報の取組を紹介しながら、大学広報の弱点や、大学の攻めの広報(戦略的広報)、守りの広報(危機管理広報)を考えます。

また、今や教育機関の社会的責任として記者会見は欠かせないものとなっています。後半では、グループワークによる簡単なメディアトレーニングを行い、より効果的なプレスリリースについて考えます。

このプログラムにより、一人ひとりが大学を背負う広報パーソンとしての自覚をもつともに、広報パーソンとして重要な人的ネットワークを築くきっかけとなることを期待しています。

■本プログラムの到達目標

1. 広報戦略の必要性を説明することができる。
2. 危機管理広報の重要性を説明することができる。
3. 広報パーソンとして常に心掛けることを二つ以上書くことができる。

FD　　8月27日(金)10:00～12:00／M32教室

事例から学ぶティーチング・ポートフォリオ学内導入のコツ

■講師

松本　高志
（阿南工業高等専門学校　電気電子工学科　准教授）

徳島大学大学院工学研究科電気工学専攻修了。民間企業を退職後、1992 年阿南工業高等専門学校電気工学科助手着任、コロラド州立大学（米国コロラド州）客員研究員等を経て現職。工学博士。

■プログラム概要

ティーチング･ポートフォリオ（以下、「TP」という。）とは「自らの教育活動について振り返り、自らの言葉で記し、多様なエビデンスによってこれらの記述を裏づけた教育業績についての厳選された記録」であり、中央教育審議会答申「学士課程教育の構築に向けて」において記述されたことから関心が高まっています。阿南工業高等専門学校では、TP作成を個人のFD活動と位置づけ、平成 21 年度に初めてTPを作成するワークショップを開催しました。

本プログラムは、TP作成ワークショップの開催事例を紹介しながら、本校がTP導入に至った経緯を具体的に説明します。また、実際にワークショップを開催するために準備したこと、事後の検証結果等の事例から、今後、各高等教育機関がTPの導入を検討する際に必要となる情報を提供します。

■本プログラムの到達目標

1. TPの基本構造を説明できる。
2. TP作成ワークショップの内容を説明できる。
3. TP導入の可能性について各所属機関において考えることができる。

FD　　8月27日(金)10:00～12:00／M33教室

どうする？授業コンサルテーション・授業研究会

■講師

（左から順に）

田中 さやか（徳島大学　大学開放実践センター　特任助教）
大阪大学大学院人間科学研究科博士後期課程単位取得退学。専門は教育工学、心理学。

川野 卓二（徳島大学　大学開放実践センター　教授）
米国ユタ大学大学院教育心理学研究科博士課程修了。専門は教育心理学、統計学。

宮田 政徳（徳島大学　大学開放実践センター　准教授）
熊本大学教育学部卒業。広島大学文学研究科博士課程後期満期退学。専門は英語学。

吉田　博（徳島大学　大学開放実践センター　特任助教）
愛媛大学理学部数理科学科卒業。同大学院理工学研究科数理科学専攻博士前期課程修了。専門は数学。

■プログラム概要

徳島大学では、2005年度より授業コンサルテーション・授業研究会を実施してきました。この徳島大学の事例を中心に、他大学の事例も参考にしながら、自校の状況に沿った授業コンサルテーション、授業研究会について考えます。授業コンサルテーションとは何か？初歩的な事から知りたいという方、授業コンサルテーションや授業研究会の企画を考えておられる教員の方々を対象に、個人ワーク、グループワークを通して情報交換を行いつつ進めていきます。今回は、これまで授業コンサルテーション、授業研究会に携わってきた教育工学・FDを専門とするスタッフがファシリテーターとなり、みなさんと一緒に考えていきます。どうぞお気軽にご参加ください。

■本プログラムの到達目標

1. 授業コンサルテーション、授業研究会の形式とその目的を説明できる。
2. 自校の状況に沿った授業コンサルテーション、授業研究会を考える。
3. 参加者同士の交流を通して、授業コンサルテーション、授業研究会に関する情報共有を行う。

FD・SD共通　　8月27日(金)13:00～15:00／M24教室

正課外活動支援で「学生中心の大学」を

■講師

西本佳代
（香川大学　教育・学生支援機構　特命助教、学生支援　GP　コーディネーター）

広島大学教育学部第五類教育学系コース卒業。同大学院教育学研究科教育学専攻博士課程前期修了。同研究科教育人間科学専攻博士課程後期退学。平成 20 年 10 月より現職。

■プログラム概要

このプログラムでは、学生と共に大学の改善策を提案することを通して、「学生中心の大学」づくりについて考えていただきます。2000 年の高等教育局報告「大学における学生生活の充実方策について」では、「教員中心の大学」から「学生中心の大学」へという方針転換が示されました。しかし、言うは易し行うは難し。実際に「学生中心の大学」づくりを進めている大学は必ずしも多くありません。

そこで、このプログラムでは、近年の「学生中心の大学」づくりを目指した取組事例について学ぶと共に、実際に、四国地区の大学に通う学生が考えた大学の改善策に対して、アドバイスをします。その作業を通して、教職員が行える、「学生中心の大学」づくりのための支援をデザインしていただきます。

（＊本プログラムは「四国キャンパス元気プロジェクト」の一環として位置づけられます。）

■本プログラムの到達目標

1. 近年の「学生中心の大学」づくりを目指した取組を説明できる。
2. 学生の考えた大学改善策に対して、適切なアドバイスができる。
3. 教職員が行える「学生中心の大学」づくりのための支援をデザインできる。

FD　　8月27日(金)13:00～15:00／アクティブ・ラーニングスペース2

どうする？初任者研修

■講師

宮田　政徳
（徳島大学　大学開放実践センター　准教授）

熊本大学教育学部卒業。広島大学文学研究科博士課程後期満期退学。専門は英語学。

吉田　博
（徳島大学　大学開放実践センター　特任助教）

愛媛大学理学部数理科学科卒業。同大学院理工学研究科数理科学専攻博士前期課程修了。専門は数学。

■プログラム概要

　現在、全国の大学、短大、高専などの高等教育機関では、それぞれの教育理念や運営体制、学生のニーズなどに合わせて様々なタイプの初任者研修が実施されています。四国の高等教育機関においても、SPODのネットワークを活かして、各県のコア校が中心となり、加盟校の新任教員を対象とした初任者研修が実施されています。このプログラムでは、皆さんの所属する機関に適した初任者研修の計画を行います。自校の初任者教員が抱える課題や必要な支援などを整理し、ニーズの把握を行い、四国で実施された初任者研修や、新任教員研修の基準枠組みを参考にしながら、初任者研修プログラムを作成します。自校において、初任者研修の企画を考えられている方、また今後このような研修の企画をする予定の方の参加をお待ちしております。

■本プログラムの到達目標

1. 初任者研修を計画するためのニーズを把握することができる。
2. 初任者のニーズに合った支援方法を見つけることができる。
3. 初任者のニーズに合った研修の目的・目標を設定することができる。
4. 初任者研修の目的・目標に沿ったプログラムを計画することができる。

FD・SD共通　　8月27日(金)13:00～15:00／M31教室

障がい学生支援入門

■講師

太田 琢磨(愛媛大学　バリアフリー推進室　室員)
東海大学大学院健康科学研究科保健福祉学専攻修了。Rochester Institute of Technology/ National Technical Institute for the Deaf Master of Science program in Secondary Education/大学院・研究生修了。2009 年 4 月より現職。

村上 沙耶佳(愛媛大学　バリアフリー推進室　室員)
愛媛大学教育学部障害児教育教員養成課程聴覚言語障害コース卒業。2009 年 4 月より現職。

高橋 信行(愛媛県立松山盲学校　教諭)
特定非営利活動法人えひめ盲ろう者友の会理事長。東京大学先端科学技術研究センター交流研究員。愛媛大学大学院理工学研究科博士課程後期課程在学中。

原田 美藤(愛媛大学　アカデミックアドバイザー(障がい学生支援担当))
NPO モコクラブ代表。愛媛大学で長らく聴覚障がい学生支援に関わる。愛媛大学大学院法文学研究科修士課程在学中。

■プログラム概要

近年、心身に障がいのある者の大学への入学が増加しています。それにともない、健常学生とは違う様々な修学上の支援・配慮が大学の責任として認識されるようになってきました。しかし、一部の先進的な支援事例を除いては、高等教育機関での障がい学生の修学支援・配慮は、その構成員の理解と実践の上に成り立っているとはまだまだ言い難い状況です。そこで本プログラムでは、先進的な事例をいきなり学ぶのではなくて、障がいとは何かを学び、障がい学生が高等教育機関で学ぶ際にどのような苦労があるのかを実習を通じて体験します。具体的には、障がい理解の入門講義(担当:太田)の後、視覚障がい(担当:村上・高橋)と聴覚障がい(担当:太田・原田)の体験実習を行います。このプログラムは、高等教育機関の構成員 1 人ひとりが障がいを理解し、意識のレベルでのバリアフリーを実現することを目的とした入門プログラムです。特に、専門的な知識や技術は必要としません。多くの方の参加をお待ちしています。

■本プログラムの到達目標

1. 障がいについての基礎知識をもとに具体的な説明ができる。
2. 障がいに応じた修学上のニーズを理解する。
3. 障がい学生支援の方策について工夫ができる。

FD　　8月27日(金)13:00～15:00／M33教室

何が学生の学びを促進するのか？～授業コンサルテーションの事例から～

■講師

（中央）
城間　祥子（愛媛大学　教育・学生支援機構　教育企画室　助教）
筑波大学第二学群人間学類卒業。同大学院人間総合科学研究科心理学専攻単位取得退学。修士（心理学）。専門は教育心理学。

（左）
大竹　奈津子（愛媛大学　教育・学生支援機構　教育企画室　特任助教）
愛媛大学農学部生物資源学科卒業。愛媛大学連合農学研究科生物環境保全学専攻博士課程満期退学。専門は水文学。

（右）
泉谷　道子（愛媛大学　教育・学生支援機構　教育企画室　特任助教）
ニューヨーク市立大学教養学部心理学専攻卒業。松山大学言語コミュニケーション研究科英語コミュニケーション専攻修了。九州大学人間環境学府行動システム専攻博士後期課程在籍。専門は英語コミュニケーション、国際理解教育。

■プログラム概要

愛媛大学の授業コンサルテーションでは、授業の中間期（第５～６回頃）に、教育企画室のコンサルタントが授業に入り、直接、学生からコメントを聞き出します。授業方法に関するコメントを多く得ることができ、コンサルタントは、学生と教員の間に入って、振り返り作業をお手伝いする役割を担っています。

本プログラムでは、授業コンサルテーションの手順や効果等の詳細について説明を行ったあと、何が学生の学びを促進するのかについて考えていきます。学びを促進する要因については、実際の学生のコメントを利用したグループワークや、事例紹介を行いながら進めていきます。授業コンサルテーションの手法や「学生は授業を受けながら何を感じているのか」について興味のある方は是非受講ください。

■本プログラムの到達目標

1. 授業コンサルテーションの手順について説明することができる。
2. 授業コンサルテーションが教員と学生に与える効果について述べることができる。
3. 学生の学びを促進する要因について述べることができる。

FD・SD共通　8月27日(金)13:00～15:00／校友会館2階サロン

大学の総合力を探求する

－理念の確認、大学人の力量形成、アイデンティティーの共有という課題－

■講師

寺﨑 昌男
（前　大学教育学会会長）

立教学院本部調査役・同大学総長室調査役。東京大学・桜美林大学名誉教授。東京大学大学院教育学研究科修了。博士（教育学）。財団法人野間研究所所員、立教大学、東京大学、桜美林大学大学院の各教授を経て、現在に至る。2006 年～2009 年　大学教育学会会長。日本学術会議連携会員。

■プログラム概要

国立大学法人、公立大学法人、学校法人、株式会社など、設立主体を多様化させた日本の大学であるが、そもそも「大学の理念や本質」とは何だったのであろうか。そして、個別の大学の設置目的（大学憲章や建学の精神）に基づいた教育には何が必要なのであろうか。また、これら「大学の理念」とFD・SDはどのような関係があり、それをどのように捉えたら良いのであろうか。

本プログラムでは、FDやSDが求められている中、

1. 大学の理念
2. FD・SDを「わがこと」とするために
3. 職員のための「大学リテラシー」
4. 自校教育はなぜ必要か

という視点を中心に参加者が大学自らの総合力につながる知見を広めることができるように話しを展開していく。

FD・SD共通　　8月27日(金)15:30～17:30／南加記念ホール

シンポジウム 「21世紀に生きる大学・高専教職員の創造」

■講師

寺﨑 昌男
（前　大学教育学会会長）

立教学院本部調査役・同大学総長室調査役。東京大学・桜美林大学名誉教授。東京大学大学院教育学研究科修了。博士（教育学）。財団法人野間研究所所員、立教大学、東京大学、桜美林大学大学院の各教授を経て、現在に至る。2006 年～2009 年　大学教育学会会長。日本学術会議連携会員。

福島 一政
（元　大学行政管理学会会長）

学校法人東邦学園理事、日本福祉大学学園事業顧問、愛媛大学監事。日本福祉大学常務理事・学長補佐・事務局長を経て、現在に至る。2005 年～2007 年　大学行政管理学会会長。

司　　会 ： 秦　敬治（愛媛大学　教育・学生支援機構　教育企画室　副室長・准教授）

■プログラム概要

　これまで教員と職員は同じ職場で働く「同僚」でありながら、高等教育を語る上では個別に捉えられてきた。FDの義務化やSDの推奨もスタート時は別々に捉えられてきたが、最近では「プロフェッショナル・ディベロップメント（PD）」、「『大学人』能力開発」といったような言葉や、それらに関する取り組みが大学教育や高等教育に関する学会でも頻繁に取り扱われはじめた。
　本シンポジウムでは、前半部分にFD・SDに関する中心的な学会として位置づけられる、大学教育学会、大学行政管理学会の会長経験者の方々に、これからの大学・高専の教職員に必要な資質や組織的な取り組みについて講演いただく。
　後半部分では、テーマに沿った対談やフロアからの質疑応答を行うことで、21世紀に生きる大学・高専教職員の創造について、考えていく。
　これからの大学・高専教職員が進むべき道筋について、参加者個々が新たな視点を持つことができるようなプログラムである。

FD　　8月28日(土)10:00～12:00／アクティブ・ラーニングスペース2

授業の双方向性を高めるクリッカー入門編

■講師

久保 研二
（広島大学　大学院教育学研究科　助手）

広島大学教育学部第一類卒業。同大学院教育学研究科博士課程前期学習科学専攻学習開発専修修了。愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室特任助教を経て現職。専門は教師教育学。

■プログラム概要

クリッカーとは、授業用のリモコンのことで、アンケートなどに対する答えを盤面のスイッチを押すことで、即座に集計しスクリーンに投影することのできるシステムのことです。（本プログラムでは、KEEPAD社製を使用。ソフトは Turning Point2008。）

講義形式の大人数授業では、教員から受講生への一方通行の伝達になりがちではないでしょうか。そのような中、クリッカーを使用することで、受講生との双方性を高めることができるとともに、受講生の集中力を維持したり理解度を確認したりすることが可能になります。また、集計結果を保存することもでき、その後、データを活用することも可能です。

本プログラムでは、クリッカーの使い方について、インストール、スライドの作成などの準備段階から実際の授業での使用方法までをわかりやすく説明します。また、参加者には実際にクリッカーを体験していただきます。

■本プログラムの到達目標

1. クリッカーの使い方を説明することができる。
2. クリッカーを用いた授業や学会発表の方法を説明することができる。

FD　　8月28日(土)10:00～12:00／M23教室

諸外国の FD ネットワーク最新事情～英・米・豪・カナダの事例から～

■講師

川野 卓二
（徳島大学・大学開放実践センター・教授）

米国ユタ大学大学院教育心理学研究科博士課程修了。専門は教育心理学、統計学。

宮田 政徳
（徳島大学・大学開放実践センター・准教授）

熊本大学教育学部卒業。広島大学文学研究科博士課程後期満期退学。専門は英語学。

■プログラム概要

講師たちが今までに参加した、世界の英語圏のFDネットワークの最新事情を紹介します。①2007 年 7 月シドニーで開催された ISSOTL (=International Society for the Scholarship of Teaching and Learning)、②2009 年 7 月ダーウィンで開催された豪州の HERDSA (Higher Education Research and Development Society in Australasia)、③2009 年 10 月ヒューストンで開催された米国の POD (=Professional and Organizational Development Network in Higher Education)、④2009 年 11 月バーミンガムで開催された英国の SEDA (=Staff and Educational Development Association)、⑤2010 年 6 月トロントで開催されたカナダの STLHE (=Society for Teaching and Learning in Higher Education) ⑥2010 年 6 月バルセロナで開催された ICED (=International Consortium for Educational Development)について、その概要と参加したセッションの様子を説明します。今から海外のFD学会に参加しようとする人たちの参考になれば幸いです。また SPOD の将来の在り方についても考える意見交換会の場となれば、と思っています。

■本プログラムの到達目標

1. 各国のFDネットワークを理解する。
2. 各国のFDネットワークについて説明できる。
3. 各国のFDネットワークに参加する。

FD・SD共通　8月28日(土)10:00～15:00(2コマ連続)／M24教室

教え方の極意　学生の眼が輝く「授業構成法＆話し方」とは？①②

■講師

田中 省三
（愛媛大学　教育・学生支援機構　客員准教授）

龍谷大学理工学部非常勤講師、東海大学チャレンジセンター准教授を経て、現職。プレゼンテーション＆教え方の極意・事務局・代表。
国立教育政策研究所、東京都教職員研修センター、高知大学など、全国各地の教育機関などで、プレゼンテーション研修や教え方研修などを担当。

■プログラム概要

教室での講義形式で授業を進める方式は、日本において最も一般的な授業のやり方の一つだと言えるでしょう。一方で、従来のこのやり方だけでは、教育的効果が表れにくく、教えた内容の定着率が芳しくない現状があるという声もよく聞きます。授業をすることが目的ではなく、教えた内容の定着率をアップさせるためには、今までの授業のやり方に、どのような方法を導入すればよいのでしょうか。また、日頃から出来る「授業改善のための小さな工夫」は、何があるでしょうか。

本プログラムでは、教える立場ではなく、学生の立場（＝授業を受ける立場）から、「望ましい授業」とは具体的にどのようなものかを考察しながら、以下の項目でポイントを説明しつつ、ワークとグループワークを行います。

1. 学生をひきつける授業構成法とは？
2. よりよい授業を行うための「話し方のツボ」とは？
3. 「望ましくない授業／望ましい授業」の違いとは？

参加者は、自らの授業を見直し、具体的な改善ポイントを見つけるヒントを持ちかえることができます。

■本プログラムの到達目標

1. 効果的な授業構成法を習得できる。
2. 魅力的な授業を行える話し方のポイントを身につけることができる。
3. 自分の授業を、自力で改善できる着眼点を定着させることできる。

FD　　8月28日(土)13:00～15:00／アクティブ・ラーニングスペース2

大人数講義法の基本

■講師

小林　直人
（愛媛大学　教育・学生支援機構　教育企画室室長
　愛媛大学　医学部　総合医学教育センター長・教授）

昭和 63 年3月東京大学医学部医学科卒、博士（医学）。順天堂大学を経て、平成 10 年より愛媛大学医学部解剖学第一講座助教授、平成 17 年より愛媛大学医学部総合医学教育センター教授。平成 21 年度より教育・学生支援機構　副機構長および教育企画室長を兼任。医学教育関係のFD活動の他、本プログラムでも毎年講師を担当している。

■プログラム概要

「良い」講義とはここでは、わかりやすく、知的な緊張感があり、学生が参加する（した気にさせる）講義をいいます。良い講義をするために気をつけておかなければならない様々な授業スキルを、実例や実習を通して習得することができます。

本プログラムでは、学生とコミュニケーションを取る方法、講義に参加させる方法や授業効果を高める方法など大人数講義で使える様々な授業スキルを実際に体験しながら学んで行きます。

さらに、参加／体験型授業の例として、実際にグループワークを体験していただきます。講義を受け持つようになって間もない教員の方はもちろん、自分の講義を振り返りたいと思われている方も是非受講ください。また、プレゼンテーション能力の開発につながりますので、職員の方々の参加も歓迎します。

■本プログラムの到達目標

1. 学生にとって良い授業とは何かを説明できる。
2. 自ら参加／体験型の授業を経験し、その長所と短所を指摘することができる。
3. 様々な授業スキルを実際の体験を通して習得し、自分の授業に生かすことができる。

FD　　8月28日(土)13:00～15:00／M23教室

ルーブリック評価入門～考える、つくる、活用する～

■講師

俣野 秀典
（高知大学 総合教育センター 大学教育創造部門 講師）

北陸先端科学技術大学院大学知識科学研究科博士前期課程修了。地域科学研究会・高等教育情報センター研究員を経て、2009 年より現職。教育プログラム開発・教育評価を中心に、FD を含めた“Educational Development”に取り組む。

■プログラム概要

成績評価について、多様な評価基準を設定することが求められております。大学の『シラバス入力手順説明書』において、“具体的な評価基準はルーブリック評価シートを事前に配布し、配点30 点とする”との例が示されたりしており、「ルーブリックって何？？」と戸惑われた教員の方も多いと聞いております。

そこで本プログラムは、成績評価の目的・意義から出発して、高等教育において近年注目が集まっているルーブリック評価についての基本的な考え方を理解することを目的として実施されます。

※ルーブリックとは、「目標に準拠した評価」のための「基準」づくりの方法論であり、評価指標として活用されます。本プログラムでは、学生が何を学習するのかを示す評価規準と学生が学習到達しているレベルを示す具体的な評価基準を示すマトリクスからなる分析的ルーブリックを主に取り上げます。

■本プログラムの到達目標

1. 目標に準拠した評価を心がける。
2. ルーブリック評価の意義を説明できる。
3. ルーブリックを授業で活用するための準備ができる。